

小学生における薬教育 —薬教育実施前後の理解度の変容—

森元 梨帆 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)
指導教員 谷川 尚己

キーワード：薬教育，セルフメディケーション，小学生

1. 緒言

近年の世界的な医療費増大や、人々の健康意識の向上を背景として、平成 12 年、世界保健機関 (WHO) では、「セルフメディケーション」を推奨している。

平成 18 年 6 月に薬事法が改正され、これまで以上に薬は身近なものとなった。

また、学習指導要領の改訂により、高校だけでなく、中学校でも「医薬品」に関する内容が盛り込まれた。しかし、小学校の学習指導要領では、総合学習や保健指導等で各校の判断で組み込むこととされている。そこで、本研究では、小学校でくすり教育を行い、その有効性を明らかにしようとした。

2. 研究方法

滋賀県内 5 校の小学 6 年生 362 名を対象に、全 7 項目 (1 くすりは病気やけがを治すために使う、2 くすりとは飲み薬のことである、3 くすりの使い方に決まりがある、4 くすりはジュースで飲んでもよい、5 同じ色のくすりは働きも同じである、6 前にもらった薬を 1 か月後にもう 1 度飲む、7 小学生がくすりを使うときは、おうちの人に相談する) によるくすりに関するアンケート調査を行った。その後、くすり教育を 45 分間行い、授業後も同様のアンケート調査を実施し、授業前後の変容を比較した。

3. 結果と考察

図 1 は、授業前後の理解度の変容を表したものである。調査項目の「くすりとは飲み薬のことである」、「小学生がくすりを使うときは、おうちの人に相談」については、ほとんど変化が見られなかったが、7 問中 6 つの項

目で授業前後の正答率は上がった。さらに、授業後のアンケートではすべての間で正答率が 90%を超えていた。また、「くすりの使い方に決まりがある」、「くすりはジュースで飲んでもよい」については、授業後の正答率が 100%という結果が得られた。

このことから、授業後にくすりの効き目や、使い方等についての知識・理解を深めることができたと考えられる。

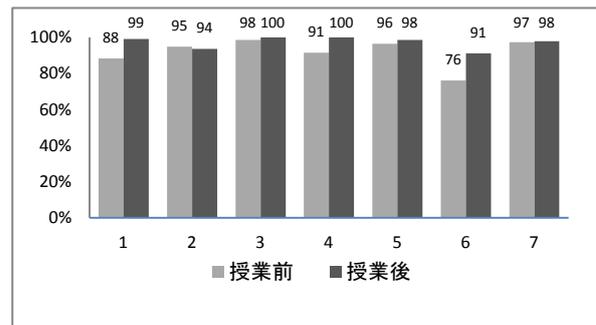


図 1. 授業前後の理解度の変容

4. まとめ

小学生にくすり教育を行い、その理解度が高まったことから、有効だと考える。

医薬品が身近になったことで、医薬品を使用する機会が増えている。そのため、小学校においても正しい知識を学習する機会を設ける必要があると考える。

今後、養護教諭や薬剤師が参画し、子どもたちが正しいくすりの飲み方を理解し、行動することに繋げていくことが必要である。さらに地域一体となった取り組みも必要になってくると考える。

引用・参考文献

くすりの適正使用協議会 啓発委員会(2012) くすり教育のヒント～中学校学習指導要領をふまえて～薬事日報社